

優勝消滅、井口力投も延長戦で力尽く

1回戦

12年秋季リーグ
第7週・10月17日
0勝1敗

中大 4-2 駒大

中大	000	020	000	2	4
駒大	000	011	000	0	2



【上】6回、同点の右越適時三塁打を放った戸柱



【右】延長10回を1人で投げ抜いたエース・井口

【駒大】	打安点
⑦中 谷	4 0 0
⑧小 林	3 2 0
⑤下 川	4 1 1
⑥白 崎	3 1 0
⑨江 越	3 0 0
③福 山	4 1 0
DH 齋 藤	2 0 0
RD 藤 原	0 0 0
HD 柳 原	1 0 0
②戸 柱	4 1 1
④山 口	3 1 0
4砂 川	1 1 0
	計 32 8 2

▽二塁打=山口
▽三塁打=戸柱

	回	打安責
●井 口	10	43114

優勝戦線に生き残るためには一敗も許されない戦いだ。同点で迎えた9回、2死三塁の好機を生かせず今季初の延長戦に突入すると、先発・井口拓皓(経4)が3連打を浴び2失点。チームはそのまま敗れ、かすかに残っていた優勝の可能性が消滅した。

「背水の陣」——。まさに、そんな状況だった。

このカードを2連勝で終え、最終週の亜大対青学大戦で青学大が2連勝で亜大からの勝ち点奪取となれば、駒大には亜大との優勝決定戦が待っていたが、最後の最後に力尽きた。

試合が動いたのは、5回。ここまで1安打に抑えていた井口が、突如3連打を浴び2失点。しかし今季の駒大は2点ほどの差に焦りはなく、その直後、1死三塁から下川知弥(市2)が冷静に打球を左前に運び1点差とした。中大は6回、プロ注目右腕・鍵谷陽平(4年II北海)をマウンドに送ると、150⁺近い速球を連発。それでも、齋藤導久(政2)が四球を選び好機をつくると、戸柱泰孝(現4)が右越適時三塁打を放ち

同点。これには「優勝もかかっていて熱くなっていた」と、ガッツポーズも飛び出した。

同点で迎えた9回、2死ながら走者を三塁に置き一打サヨナラの場面で、打席には代打・柳原悟(法3)。右翼に大飛球を放つが、打球は惜しくも相手のグラブに吸い込まれた。そして、今季初の延長戦へ突入すると、井口がまたも3連打を浴び2失点、最後は併殺に仕留められ黒星を喫した。

試合後、西村亮監督は「選手はまだまだ成長中です。優勝争いを最後までできたことは来年につながるのかな」と、選手を労わりながらも前を向いた。

最終学年での優勝に懸けていた4年生の悔しさは大きなものだったが、「必ず勝ち点を獲って引退する」と意気込めば、「必ず勝って送り出したい」と後輩たち。ひとつになったチームの気持ちは「必ず」勝利へとつながるはずだ。

文 井松智子
写真 II 山本春熙